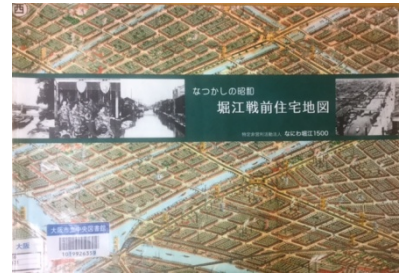


堀江戦前住宅地図

大阪市立中央図書館で特定非営利活動法人「なにわ堀江 1500」編集・発行の標題の資料を見つけた。堀江の歴史を知るうえで貴重な復元地図なので、紹介しておきたい。写真上は表紙表「大阪パノラマ地図」大正 13 年(1924)、日下わらじ屋、下は表紙裏「最新大阪電車地図」昭和 3 年、電気大博覧会。

まず堀田暁生・大阪市史編纂所長の「まえがき」から一街は時代とともに変貌し、その様相を変えていく。その街で生を受け育った人々にとって、ありし日の街の姿は追憶の中に潜んでいる。その街「堀江」は第 2 次大戦後大きく変貌し、かつて堀江地域を画していた長堀川・西横堀川・堀江川は埋め立てられて姿を消し、南の道頓堀川と西の木津川が残るだけである。水都大阪の象徴でもあった、水路に圍繞(いじょう)された堀江は歴史の中にしかない。

地域の歴史とは、そこで起きた事件や習俗・生活様式などを明らかにすることだけではない。その地域でどのような人々が生活し、日々の暮らしが営まれていたかを、後世に残すこともまた重要な意味を持っている。本書の復元地図は堀江で生まれ育ち、あるいは堀江で生活や活動の拠点を持っていた人達が、今を去る 70 年前の堀江の居住空間の実相を復元したものであり、戦前の堀江を今に彷彿とさせるものであるとともに、長く後世に伝えられていくべきものであると信じる。



「ホリップル」という地図に注目した。昭和 15 年(1940 年)、325 万人を突破した大 大阪は、商工業ともにピークを迎えるが、堀江地区の人口についてみれば、昭和 15 年に人口 3 万 1118 人、世帯数 6102、1 世帯当たりの人口 5.1 人。平成 16 年には、1 万 8722 人、1 万 3351 世帯、1 世帯当たり 1.81 人となる。

堀江の生業を見てみると、北堀江には花街、南堀江には道具屋、西長堀・西道頓堀の川筋には、材木屋と海運業者が群居し、集まってくる人を対象に多くの小売業が店を構えていた。

写真の住宅地図は、「西長堀南
通一丁目 北堀江上通一丁目」。
こうした地図が、堀江の地域ごと
にカラーで掲載してある。

「凡例」—この地図の作成は、
次の手法・手順で行いました。

1. 昭和 15 年(1940)前後の、堀
川に囲まれた堀江の町並み
の再現を、第 1 義といたしま
した。
2. 明治 44 年(1911)刊行の『大阪市地籍図』を基本として、その後の町名変更、軒切り
を追加修正しました。
3. 昭和 12 年 4 月 1 日の『大阪市電話帳』より、氏名、職業（屋号）を抽出して、書き
込みを実施。部分的に、昭和 14 年版の『大阪市電話帳』で補いました。
4. 昭和 4 年発行の『南北堀江誌』の町並み資料を参照しました。
5. 2～4 の資料により、平成 18 年（2006）に『堀江今昔物語』の付録として、「堀江今
昔地図」を作成しましたが、今回はさらに、戦前の堀江・高台・日吉各尋常小学校
の卒業生の人々から情報を得、また校正もお願いして、書き込み修正を行い、精度
を高めました。
6. 紙面の制約上、氏名・屋号などは簡略な表現にし、路地は省略しています。



(2018 年 8 月 20 日)